

## SDS (Safety Data Sheet)

# 安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名 58108267 男前モノタロウ 排気系シールに使える押し出し性の良い高耐熱シリコンガスケット  
会社名 株式会社MonotaRO  
所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階  
担当者名 商品お問合せ窓口  
電話番号 0120-443-509  
FAX番号 0120-289-888  
緊急連絡先 所在地と同じ  
整理番号 M160803

### 推薦用途及び使用上の制限

推薦用途

接着剤・シール剤【業務用】

### 2. 危険有害性の要約 (GHS分類)

#### GHS分類

引火性液体	区分外	
特定標的臓器有害性(反復暴露)	区分2	H373 長期にわたる, 又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ
感作性(皮膚)	区分1B	H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
水生環境有害性(急性毒性)	区分3	H402 水生生物に有害
水生環境有害性(慢性毒性)	区分3	H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

#### GHSラベル要素



GHS07



GHS08

注意喚起語

警告

#### 危険有害性情報

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
H373 長期にわたる, 又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ  
H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

#### 注意書き/安全対策

使用前にラベルやSDSを確認すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
指定された個人保護具を使用すること。  
取扱後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと。  
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
保護手袋を着用すること。  
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。  
環境への放出を避けること。  
熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。 ー 禁煙  
涼しいところに置くこと。

**注意書き/応急処置** 暴露または暴露の懸念のある場合：医師の診断/手当てを受けること。  
 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗淨を続けること。  
 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。  
 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。  
 汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。  
 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合は医師の診断/手当てを受けること。  
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 火災の場合：消火に二酸化炭素、粉末消火剤、または泡消火剤を使用すること。

**注意書き/保管** 施錠して保管すること。  
 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

**注意書き/廃棄** 内容物/容器を承認を受けている廃棄物処理施設に廃棄すること。

**その他の危険性** 飲み込むと有害のおそれ  
 PBT(残留性、生物濃縮性、毒性物質)及びvPvB(高残留性、高生物濃縮性物質)アセスメント  
 -PBT(残留性、生物濃縮性、毒性物質)：情報なし  
 vPvB(高残留性、高生物濃縮性物質)：情報なし

### 3.組成および成分情報

単一の化学物質または混合物 混合物

化学物質名	CAS番号	化審法	安衛法 番号	PRTR法 番号	濃度又は濃度範囲(%)
ポリアルキル(C1～20)シロキサソ	63148-62-9	(7)-476	非該当	非該当	10～19
N, N', N'' - [(ビニルシラントリイル)トリオキシ] トリブタン-2-イミン	2224-33-1	(2)-2038	非該当	非該当	5～9
3-アミノプロピルトリメトキシシラン	13822-56-5	(2)-206	非該当	非該当	1～4
酸化鉄	1309-37-1	(1)-357	該当	非該当	5～9

### 労働安全衛生法

規制区分	法文物質名	政令番号
名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2 別表第9)	酸化鉄	192

### 4.応急措置

**吸入した場合** 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。  
**皮膚に付着した場合** 付着した製品を除去し、直ちに水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。  
**眼に入った場合** 少量でも眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗淨を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。  
**飲み込んだ場合** 口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。  
**予想される急性症状及び遅発性症状** 特になし  
**応急措置をする者の保護** 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

### 5.火災時の措置

**消火剤**  
 大型の火災 泡消火剤、粉末消火剤、水噴霧  
 小型の火災 炭酸ガス、粉末消火剤、水噴霧  
**使用してはならない消火剤** 情報なし  
**特有の危険有害性** 火災或いは非常に高温状態下で、本製品は金属酸化物、一酸化炭素、不完全燃焼炭化物、窒素酸化物、  
 フォルムアルデヒド、二酸化ケイ素などの有害分解物を放出することがある。  
**特有の消火方法** 地方の緊急対応プランに基づき必要であれば避難或いは隔離する。水噴霧で火災に曝露した容器を冷却を  
 持続する。  
**消火を行う者の保護** 大型の化学品を巻き込んだ火災の消火に当たっては自給式呼吸保護具と保護衣を着用すること。

---

## 6.漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

作業者は適切な保護具(「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照)を着用する。

環境に対する注意事項 周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

廃棄するために、ふき取る或いはすくい取って回収する。

シリコン化合物は少量でもスリップする危険性があるため、漏洩したエリアを洗浄する。

洗浄のためにはスチームの使用や、溶剤や洗剤を用いる必要があります。

製品を吸着させた或いは洗浄の材料を含んだ廃棄物は自己発熱する可能性があるため適切に燃焼焼却する。

### 二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

---

## 7.取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 安全取扱注意事項

##### 技術的対策

適切な換気装置を用いること。本製品は水或いは湿った空気の曝露によりメチルエチルケトオキシム(MEKO)を放出する。また同様に水或いは湿った空気への曝露で引火性のメタノールを発生する。セクション8に規程する濃度に押さえるために使用中換気を行う。

#### 安全取扱い注意事項

取扱い後は良く手を洗うこと。この製品を使用する時に飲食又は喫煙をしないこと。眼、皮膚への接触を防止し、飲み込まない、吸入を避ける。

### 保管

技術的対策	出来れば局所排気装置等を設ける。
混触禁止物質	情報なし
保管条件	容器を密閉して水分や湿度を避けて保管する。
容器包装材料	情報なし

---

## 8.暴露防止及び保護措置

ばく露限界 : 設定されていない。

管理濃度・作業環境評価基準 : 設定されていない。

### 許容濃度(暴露限界値、生物学的暴露指標)

水或いは湿度との接触により生成するメタノールの許容濃度は以下の通りである。

日本産業衛生学会(2012年度) 200ppm、260mg/m<sup>3</sup>

ACGIH(2012年度)TLV-TWA 200ppm、250mg/m<sup>3</sup>

水或いは湿度との接触により生成するメチルエチルケトオキシムのメーカーガイドライン

TWA 3ppm、STEL 10ppm

---

### 保護措置

呼吸器の保護具	適切な呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	ブチルゴム、天然ゴム、ニトリルゴム、ネオプレンゴム製の耐化学薬品保護手袋を着用する。
眼の保護具	少なくとも、保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	皮膚接触を防止する適切な保護衣を着用する。

設備対策 適切な全体排気設備および局所排気設備を用いる。

衛生対策 取扱い後はよく手を洗うこと。  
取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

---

## 9.物理的及び化学的特性

外観	銅色 スラリー状	水との溶解性	不溶
臭い	かすかな臭い	蒸気圧	情報なし
引火点	>200°F (>93.3°C タグ密閉式引火点)	沸点	情報なし
発火点	400°C	融点	情報なし
pH	適応しない	溶解性	情報なし
比重	1.04g/cm <sup>3</sup> (20°C)	揮発成分	情報なし
爆発範囲	情報なし	溶剤含有量	
自己発火点	情報なし	有機溶剤含有量	0.0%
分配軽水(n-オクタノール/水)	情報なし	固形物含有量	99.5%

---

## 10.安定性及び反応性

反応性	情報なし
安定性	安定である
危険有害反応可能性	危険有害な重合反応は起こさない
避けるべき条件	湿度
混色危険物	酸化剤、水、水分
有害な分解生成物	湿度、水分との接触によりメタノール、メチルエチルケトオキシムを生成する。燃焼或いは非常に高温な状態下で、金属酸化物、一酸化炭素、不完全燃焼炭化物、窒素酸化物、フォルムアルデヒド、二酸化ケイ素などの有害分解物を発生する。

## 11.有害性情報

### 急性毒性

急性毒性(経口LC50) 製品としてデータなし

### 成分の有害性情報

#### [酸化鉄 CAS No.1309-37-1]

酸化鉄(CAS1309-37-1)に関しては国内一般メーカーSDSを参考に以下の記述がある。

急性毒性(経口LD50)	>10000mg/kg (ラット)
(吸入-ガス)	GHSの定義による固体である
(吸入-粉塵)	本物質は固体で蒸気圧はほとんど無視できるため、吸入試験は粉塵で行われたと考えられる。 LC50値が得られた試験がないためデータ不足で分類できない
(吸入毒性-ミスト)	本物質は固体で蒸気圧はほとんど無視できるため、吸入試験は粉塵で行われたと考えられる。 LC50値が得られた試験がないためデータ不足で分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ヒトで発赤が生じ、moderateな刺激性がある (ICSC(J) (2004),IUCLID(2000))との記載に基づき、区分2とした
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ヒトでcorrosive(IUCLID(2000))との記載に基づき、区分1とした
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性 :データなし 皮膚感作性 :データ不足のため分類できない
生殖細胞変異原性	呼吸器感作性 :データなし 皮膚感作性 :データ不足のため分類できない
発がん性	ACGIHでA4I分類されていることに基づき、区分外とした
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトで咳が見られ、息苦しさもあるとの記載(ICSC(J) (2004),IUCLID(2000))に基づき、区分3(気道刺激性)とした
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトで胸部X線所見に以上を生じるが、臨床滴に問題はないとの記載(ACGIH(2001))、および肺に蓄積すると鉄症になるが、良性のものであり綿維症に進展しないとの記載(ACGIH(2001))がある。 また、曝露により金属熱にかかることがあるとの記載(IUCLID(2000))がある。 良性ではあるが肺への影響が見られたこと、および金属熱にかかる可能性があることから、区分1(呼吸器系)とした
呼吸性呼吸器有害性	データなし
生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
IARC	Group 3

#### [N, N', N'' - [(ビニルシラントリイル)トリオキシ] トリブタン-2-イミン]

N, N', N'' - [(ビニルシラントリイル)トリオキシ] トリブタン-2-イミンに関しては製品原液メーカーSDSに以下の記述がある。

急性毒性(経口LD50)	500mg/kg (ATE)
経皮(LC50/4h)	11mg/l (ATE)
初期刺激作用(皮膚において)	刺激作用はなし
(眼において)	刺激なし
感作性	感作作用なし

## 〔メチルエチルケトオキシム(MEKO)〕 硬化反応時の生成成分

メチルエチルケトオキシムに関してはメーカーSDSに以下の記述がある。

水分あるいは湿度との接触によりMEKOを生成する。

オスのげっ歯類はMEKO蒸気の吸入により生涯に肝臓がんを発症する。サプライヤーによって人に対する影響を調査する追加試験が計画されています。追加情報が入手できるまでMEKOの曝露は可能な限り最小にするよう維持すること。

## 〔3-アミノプロピルトリエトキシラン〕

本成分は以下の項目でGHS分類されている。

急性経口毒性	区分4
皮膚腐食性	区分1
眼刺激性試験	区分1
皮膚感受性	区分1
標的臓器(単回)	区分3(気道刺激性、麻醉性)
標的臓器(反復)	区分2(呼吸器)

---

## 12.環境影響情報

### 生態毒性

生態毒性	魚類に対して毒性がある
残留性・分解性	製品としてデータなし
生物蓄積性	製品としてデータなし
土壌中の移動性	製品としてデータなし
その他の参考注意事項	
水への危険度分類1(ドイツ規定/自己査定)	水に対する危険性は僅かにある。 薄めずに或いは大量に地下水・河川もしくは下水施設に流してはならない。水生生物に毒性がある。

PBT(残留性、生物濃縮性、毒性物質)及びvPvB(高残留性、高生物濃縮性物質)アセスメント

PBT(残留性、生物濃縮性、毒性物質)	情報なし
vPvB(高残留性、高生物濃縮性物質)	情報なし

---

## 13.廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
汚染容器および包装	: 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

---

## 14.輸送上の注意

### 国際規制

国連番号	該当しない
航空輸送	該当しない
海上輸送	該当しない

### 国内規制

陸上規制	消防法の規定に従う
航空規制	該当しない
海上規制	該当しない

緊急時応急措置指針(容器イエローカード)番号 133

特別の安全対策	: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。容器に衝撃を加えたり、引きずる等の乱暴な取扱いをせず、転倒、落下、破損しないように積載する。重量物を上積みしない。
---------	--

---

## 15. 適用法令

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善に関する法律(PRTR法)

:該当せず。[該当せず] (組成及び性状より判定)

注) [ ]内は2009年10月1日 改正政令施行後の情報です。

改正第一種指定化学物質のPRTR制度に基づく排出・移動量は現行第一種指定化学物質で把握する必要があります。

労働安全衛生法

名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

政令番号192号(酸化鉄)

消防法

:第四類第三石油類(非水溶性液体) 危険等級Ⅲ

毒物劇物取締法

:該当せず。

---

## 16. その他の情報

このMSDSは、JIS Z 7250:2005、JIS Z 7251:2006、JIS Z 7252:2009、JIS Z 7253:2012に準拠し、記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

引用文献

NITE CHRIP データベース

日本産業衛生学会(2012) 許容濃度の勧告

ACGIH(2010) TLVs and BEIs

厚生労働省 化学物質の表示・文書交付制度あらまし

米国原料メーカー MSDS(MSDS作成専門翻訳会社作成) 参照

原料原産国

米国